

システム
YAMATO

異例の「書店支援」実施 来年1月から

書店注文で「1冊10円」報奨

出版社や倉庫会社にクラウド型販売管理システムを販売するシステムYAMATOは、来年1月から12月末までの1年間、「書店が出版社に注文するだけで1冊・10円の報奨金を支払う」という異例の書店支援計画を本紙に明かした。同社の関連会社、ブックエスエスが運用するネット取次「NOAーブックサービス」で受注した商品を対象に実施する。システム会社が書店に報奨金を支払うのは極めて珍しい。御茶の水書房、塙書房、明德出版社の3社でテストを始めた。最大200社弱の出版社の参加を見込んでいるという。

「実売率80%」が参加条件

「NOAーブックサービス」受注商品で

今回、報奨施策の対象となる出版社は、システムYAMATOが販売する販売管理システム「NOAーWorks J」を導入している出版社と倉庫会社12社。倉庫会社と取引する出版社を含めて計200社弱の出版社の注文品について1冊・10円の報奨金を支払う。参加出版社は現在、未確定であるが、今後、協議して確定するようだ。報奨金は出版社ではなく、システムYAMATOが支払う。

書店は9月に開設する「NOAーブックサービス」の画面上で、出版社および倉庫会社で保有する「実数在庫」を確認し、帳合取次会社を指定して注文することができる。書店の参加条件は、「来年1月から年間実売率80%以上」「出版社に対して同システムの導入を呼びかけること」を掲げた。報奨金の支払いは販売実績を検証した後、2021年1月以降になる。

「NOAーWorks J」は倉庫会社と連動した在庫・販売管理システム。書店からの注文品は、倉庫会社から日本出版販売やトーハンなどに直接送品することで、書店納品期日を短縮している。システムYAMATOの大和恒夫社長は、「書店にNOAーブックサービスを広く認知してほしい。そのため投資として考えている」と話している。

同社では昨年10月、倉庫会社から読者へ直接販売するネット書店を開設した。倉庫会社が「読者からの注文管理」「荷造り」「出荷作業」を担っている。しかし、リアル書店の窮状や、新刊配本軒数が減少する出版社、返品率減少を掲げる取次会社の取組み、同システムの普及などを鑑みて、今回の施策に踏み切った。

12社の倉庫会社は次の通り。矢留美装、共和製本、小宅商事、朋栄ロジスティック、東京集配センター、三協、残心、湯本商事、富樫梱包、佐藤商店、三貴流通、あゆみ美装。

問合せは ☎03(5227)3727、システムYAMATOの梅原秀之氏まで。